

✿□■□■□✿□■□■□■□✿□■□■□■□✿□■□■□■□✿
メールニュース 12月号 理研バイオリソースセンター実験植物開発室
✿□■□■□✿□■□■□■□✿□■□■□■□✿□■□■□■□✿

このメールは、最近リソースの請求をされた方、技術研修に参加された方、及び展示会等にて実験植物開発室からのメールニュースを希望された方を対象に送信されています。配信不要の方はお手数ですが plant@brc.riken.jp までご連絡ください。

---● 「名古屋議定書」に係る国内措置の検討状況に関する説明会 ●-----

来月「名古屋議定書に係る国内措置の検討状況に関する説明会」が全国各地で開催されます。議定書が定める「遺伝資源の取得の機会及びその利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分」は、遺伝資源（バイオリソース）を利用した学術研究にも深く関わる課題ですので、コミュニティの皆様にご案内させていただきます。直接、環境省の担当者に名古屋議定書について学術界からの意見を伝えることができる貴重な機会となりますので、遺伝資源に関わる研究者や産官学の知財管理関係者の方にはぜひご参加いただきたいと思っております。

全国7地区に分かれ、開催日時が設定されています。
参加申込み方法などを含めた詳細は環境省のホームページをご覧ください。
<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=17505>

-----● テクニカルサポート (No. 8) : シロイヌナズナ野生系統について ●-----

今月よりシロイヌナズナの野生系統リソースに関する話題を紹介します。
初回は当室が保存する野生系統の由来についてご説明します。

当室で保存する野生系統の多くは1980年代までドイツで活動していたAIS (The *Arabidopsis* Information Service) に由来します。AISが活動を停止した際に宮城教育大学の後藤伸治教授が運営していたSASSC (The Sendai *Arabidopsis* Seed Stock Center) に種子が分与され、その後理研BRCの発足に伴いSASSCより当室に寄託されました。なお、シロイヌナズナ近縁種につきましては、後藤教授のほか国内の関連分野の先生方より、日本各地で採集された株の寄託を受けております。近縁種は増殖に時間と手間がかかることが多いため、準備できた株より公開してゆく予定です。

野生系統の採集では、同一地点に生育する複数個体より種子を採集して保存します。従って同一系統内に多様な遺伝型が存在する可能性があり、多様性を維持するために、リソースセンターにおける通常の増殖では5~10個体を栽培して得た種子を混合して保存しています。一方で遺伝型が多様のままでは遺伝子マッピングなど解析を行う際に問題が生じることから、リソースセンターでは遺伝的に純粋な系統を樹立する試みも行っています。用途に応じて使い分けていただくと、研究の効率化につながることを期待されます。

今年も研究コミュニティの皆様にはたいへんお世話になりました。2014年も引き続き皆様のニーズに基づいた事業を進めて参ります。リソースの寄託や提供に関わるご相談、ご質問は、お気軽に下記メールアドレスにお送りください。今後ともよろしく願いいたします。

❁*.:.'° ❁°.'.:*:.。❁.:*.:.'° ❁。.:*:..:*❁

理化学研究所バイオリソースセンター

実験植物開発室 提供係

〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-1-1

TEL 029-836-9067/FAX 029-836-9053

MAIL plant@brc.riken.jp

HP <http://www.brc.riken.jp/lab/epd/>

❁*.:.'° ❁°.'.:*:.。❁.:*.:.'° ❁。.:*:..:*❁